

エネルギー環境教育のひろば

北海道エネルギー環境教育研究委員会
組織成規委員会
2007.09.27発行
第8号



平成19年度 総会 開催
五月十九日(土)「平成十九年度総会」がホテルライフォート札幌で開催された。
今回の総会では新役員
の紹介等が報告された。
引き続き行われた記念講演では、電力中央研究所理事の池本一郎氏が「地球温暖化とエネルギーを考える」I P C O第四次報告書と京都議定書後の課題」という演題で講演を行った。



- ### 新役員紹介
- | | | |
|---------------------------------|---------------------------------|-------------------------------|
| 委員長
札幌市立米里中学校長
谷直人 | 副委員長
北海道大学教授
杉山憲一郎 | 顧問
北海学園 常任監事
原一夫 |
| 札幌市立山の手養護学校長
坂田義成 | 札幌市立日章中学校長
佐藤哲夫 | 北海道文教大学短期大学部非常勤講師
作原逸郎 |
| 札幌市立徳路小学校長
武岡和広 | 函館市立高盛小学校長
中西英明 | 北海道小学校理科研究会顧問
日野宣洋 |
| 旭川市立愛宕東小学校長
久保敏則 | (道南支部長)
札幌市立山鼻中学校長
鳥居正年 | 札幌市役所 文化財部文化財保護指導員
遠藤絨之助 |
| | | 北海道技術・家庭科教育研究会顧問
蓬田幸男 |
| | | 光塩学園女子短期大学講師
平田文夫 |

総会挨拶
新委員長 谷直人

本会は、北海道における多様なエネルギー環境教育の推進を図ることを目的として、平成十四年二月二十五日に設立され、エネルギー環境教育に関心をもち、教育関係者の実践的研究交流の場として大きな役割を担ってまいりました。この間、前任の鳥居委員長のリーダーシップと先を見通した委員会運営のもと、道南支部と旭川支部が立ち上がり、会員は三百名を超え、教科・校種を越え、幼稚園から小学校、中学校、高校、そして大学まで一堂に会するという、全国に類を見ない研究団体へと大きく成長してきました。発足から五年間の活動では、当初三年間の基礎作りを経て、後半二年は各校における『実践』の積み重ねを通して、将来を担う「ひとづくり」の実現に向け、活性化に努めてまいりましたが、昨年は成果、とりわけ昨年の全道大会の小学校を会場に「第一回エネルギー環境教育研究大会」を開催し、研究活動の成果を全道に発信することができました。このように、輝かしい実績を持つ当委員会の委員長としての重責を担うには、はなはだ役不足ではあるものの、皆様の助けをお借りしながら、活動を推進していくことでお引き受けさせていただきます。今年度は「六年目―新たなスタート」と位置づけ、五年間の成果、とりわけ昨年の全道大会の成果と実績を受け継ぎ、大地にしっかりと根ざした研究を行うとともに、日常活動を重視する中で「授業実践交流」を通して、着実な歩みを進めていきたいと考えております。また、全道各地に活動の輪を広げる中で、実践的な活動をより一層活発に展開するため「新しい戦力」として、新会員の発掘に努める所存であります。会員各位の協力並びにご列席の皆様のご指導、ご支援を切望するものであります。本会設立の原点を大切にしながら、未来を生きる子どもたちのために忌憚のないご意見をいただくことをお願いし、挨拶させていただきます。

観察研修のお知らせ

◆ 平成十九年十月二十日(土) 九時〜十八時
アレフ恵庭えこりん村(外食産業の環境対策)
◆ 日本製鋼所室蘭製作所(世界の主要発電設備の素材製作、タービン・発電機ロータ等)

今年度の授業交流第一弾
七月二十四日(火)、大谷地小学校の森剣治先生が「たくわえられる電気」という内容で、キャパシタ(コンデンサ)を利用し、電気の量に目を向けさせる授業を行った。三十七名の先生方が参加し行われた。
◆ 今後の授業交流予定
十一月十六日(金)、平岸中学校の本間正和先生が「エネルギーの変換と利用」という内容で授業を行う予定である。新幹線などで利用されている回生ブレーキの原理を実験を通して学習する。エネルギーの無駄をなくし有効利用するための技術開発がエネルギー環境に貢献していることを知る授業である。